

民泊体験をとおして修学旅行生に農村の暮らしと文化を伝え、村も活気づける

—地域社会の振興機能—

おおぎみまるごとツーリズム協会



大宜味村の塩屋湾 しおやわん

平成20年（2008年）に大宜味村の施策として観光の振興が提示されたことを契機に、平成22年（2010年）に「おおぎみまるごとツーリズム協会」が発足した。これまで会では、県外からの修学旅行生を中心に受け入れる民泊事業「いぎみ（大宜味）民泊体験」を主体事業として、大宜味村の特性である健康長寿と緑豊かな自然環境を活かした「大宜味型体験滞在・交流プログラム」を掲げ、大宜味村をまるごと体験・体感できるプログラムづくりを実施している。



おおぎみそん
沖縄県大宜味村



大宜味村特産のシークワサーを収穫した生徒

〔体験学習と教育〕

いぎみ民泊体験では、滞在期間中に必ず滞在先の農作業を手伝う等、大宜味村ならではの農村の暮らしを学ぶための独自のルール作りをしている。

また、畑からの赤土流出対策の一環として、民泊をしている修学旅行生によるイネ科植物の植栽活動を実施する等、農業と環境の関わりを学習する場所としても活用している。



赤土流出対策でイネ科植物（ベチバー）を植栽する生徒

〔地域社会の振興〕

会では、民泊受け入れ農家向けに旅館業許可取得に向けた研修会や、救急救命講習会、食事に関するアレルギー講習会等を実施し、学校や保護者が安心して子どもを預けられる環境作りをしている。

また、受入れ農家としても、子どもと交流することで活気が生まれ、今まで取り組んだことのない農産物の加工に挑戦したり、新しい農産物の栽培を始めたりする農家もいる。

なお、民泊事業に関しては、隣接する国頭村、東村と連携し、1村単独では受け入れ困難な大型校（200名以上）の修学旅行生も受け入れ可能にするとともに、安心・安全を第一とした受入農家会員の共通ルール・民泊等に係る料金の統一化を図ることで、3村の事業内容の充実化を促進する体制を構築している。



救急救命講習会を受ける受け入れ農家



大宜味村の特産物を使った「ぶながや弁当」を作る農家



食卓を囲む生徒たちと農家

《おおぎみまるごとツーリズム協会》

<http://www.ogimi-tourism.com/index.html>